

関学大、実家が事業営む学生に講座

多くの中小企業オーナーが輩出している関西学院大（兵庫県西宮市）が、実家が事業を営む在学生向けに後継ぎ養成講座を開く。講師には親から家業を継いだ現役中小企業オーナーを招き、後継者に欠かせない心構えやノウハウを説く。

（島脇健史）

「次世代の後継者のための経営学」と銘打ち、約1000人の学生を対象に、4〜7月に毎週1回開講する。大阪の中小企業を支援する財団法人・大阪産業創造館が9人の講師を派遣し、家業を継ぐことを避けたり、不安を持ちたりしている学生に、講座を通じて家業に向き合ってもらおう狙いだ。

水道管製造会社「日建産業」（大阪市西区）社長の濱口健宏さん（41）は講師の一人。父から32歳で社長を継いだ。三菱商事で鉄鋼の営業をしていたが、家業が数十億円の借金を抱え、父から「助けてくれ」と頼まれ入社した。銀行の担当者「君の人生は借金を返すことだけだ」と言われ、一念発起し、黒字に転換した。「社長業は責任もあるが、自分

家業継ぎませんか？

現役社長が心構え指南

でやりたいことを描ける。「楽しいから早くやりなさい」と教えたい」同じく講師で、帽子専門の卸売業「栗原」（同）の4代目社長、栗原亮さん（43）は別会社で婦人服の営業をしていたが、「家族を支えてくれた会社に恩返ししたい」と社長職を継いだ。「後継ぎの使命を少しでも感じるならやるべきだと伝えたい」と話す。

2006年版の中小企業白書によると、国のアンケートに回答した全国の中小企業約2千社のうち「自分の代で廃業したい」企業が約100社。このうち廃業理由を「適切な後継者が見当たらない」とした企業が約24%あった。大学側は「講座をきっかけに学生が家業を継げば、地域経済の活性化につながる」としている。